

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和5年度12月号

○ 概要

- (1) 令和5年度12月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,444億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+4.3%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,436円（伸び率▲3.0%）であった。（→P.1,2）
調剤医療費の内訳は、技術料が2,022億円（伸び率+6.5%）、薬剤料が5,408億円（伸び率+3.5%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,058億円（伸び率+2.8%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,352円（伸び率▲5.3%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.80種類（伸び率+0.3%）、27.2日（伸び率▲3.9%）、70円（伸び率▲1.8%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料4,222億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+75億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の796億円（伸び幅+50億円）で、伸び幅が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の+50億円（総額796億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,222 億円 (+75 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(796 億円)	21 循環器官用薬 (608 億円)	11 中枢神経系用薬 (584 億円)
0歳以上 5歳未満	24.4 億円 (+1.8 億円)	44 アレルギー用薬 (7.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.3 億円)	61 抗生物質製剤 (3.4 億円)
5歳以上 15歳未満	121.6 億円 (+29.8 億円)	44 アレルギー用薬 (37.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (29.6 億円)	62 化学療法剤 (15.0 億円)
15歳以上 65歳未満	1,610 億円 (+85 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(305 億円)	11 中枢神経系用薬 (297 億円)	21 循環器官用薬 (186 億円)
65歳以上 75歳未満	890 億円 (▲50 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(203 億円)	42 腫瘍用薬 (154 億円)	21 循環器官用薬 (148 億円)
75歳以上	1,576 億円 (+8 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(279 億円)	21 循環器官用薬 (271 億円)	42 腫瘍用薬 (205 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,436円（伸び率▲3.0%）で、最も高かったのは北海道（11,210円（伸び率▲5.0%））、最も低かったのは佐賀県（8,128円（伸び率▲0.5%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+1.2%）、最も低かったのは徳島県（伸び率▲5.2%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	85.2 %	+1.3 %
薬剤料ベース	19.6 %	▲0.1 %
後発品調剤率	81.5 %	+1.1 %
（参考）数量ベース（旧指標）	60.2 %	+0.9 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.8 %	+31.1 % (10歳以上 15歳未満)	▲6.1 % (70歳以上 75歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.6 %	29.5 % (100歳以上)	11.2 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	85.2 %	89.2 % (100歳以上)	81.5 % (5歳以上 10歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	900 億円 (+23 億円)	21 循環器官用薬 (275 億円)	11 中枢神経系用薬 (154 億円)	23 消化器官用薬 (105 億円)
0歳以上 5歳未満	8.8 億円 (▲0.2 億円)	44 アレルギー用薬 (4.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.6 億円)	62 化学療法剤 (0.8 億円)
5歳以上 15歳未満	21.8 億円 (+5.0 億円)	44 アレルギー用薬 (10.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.6 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.1 億円)
15歳以上 65歳未満	323 億円 (+18 億円)	21 循環器官用薬 (78 億円)	11 中枢神経系用薬 (72 億円)	44 アレルギー用薬 (34 億円)
65歳以上 75歳未満	187 億円 (▲8 億円)	21 循環器官用薬 (72 億円)	11 中枢神経系用薬 (23 億円)	23 消化器官用薬 (23 億円)
75歳以上	358 億円 (+9 億円)	21 循環器官用薬 (124 億円)	11 中枢神経系用薬 (57 億円)	23 消化器官用薬 (53 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,341 円	1,717 円(北海道)	1,156 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.4%	▲0.1 % (佐賀県)	▲6.6 % (北海道)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	85.2 %	91.2 % (沖縄県)	81.5 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.6 %	22.4 % (鹿児島県)	17.2 % (京都府)
後発医薬品調剤率	81.5 %	86.5 % (沖縄県)	77.6 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	60.2 %	67.6 % (沖縄県)	56.6 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和5年度12月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。